

2017 年度（対象年度：2016） 自己点検・評価シート

基準 1	理念・目的
------	-------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
101	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	A	A
	①建学の精神の設定とその内容 ・目指すべき方向性 ・育成する人間像		
102	大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	A	
	①建学の精神の普及と醸成 ・学生及び教職員への周知・理解 ・教育・研究・社会貢献における具現化 ・人権尊重の理解促進		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
No.101	2012 年度に部局長会において建学の精神を明文化し、本学が育成する人間像を明示している。(A)
No.101	建学の精神を、ホームページ、学生手帳、建学の精神冊子、出講手帳等に明示している。(A)
No.102	「建学の精神」冊子を全新生に配付し、必修科目「仏教の思想」の副読本として使用している。(B)
No.102	建学の精神に根ざした「人権に関する基本方針」をあらたに策定しホームページ等で明示している。(C)
No.102	建学の精神に根ざした法要・行事を実施し宗教委員会において参加人数等を確認し点検している。(D)
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
項目 No.102	「建学の精神」冊子の中国語版／英語版を留学生等に配付し、ホームページで公開している。(A)
項目 No.102	建学の精神の具現化のひとつとして「人権に関する基本方針」を策定し公開した。(C)
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No.102	学生が実施するアンケートに協力し、建学の精神の理解度を調査している。2014 年度から実施しているが、今後、設問の検証や、継続的に実施するための手法の確立が課題である。(E)
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 伸長・改善の進捗状況 >

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
「研究活動の指針」において 2012 年度以前の表現が残っていたが、全学研究会議にて改善が図られた。(資料 F)

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
No.102	宗教委員会で、より良い建学の精神の普及と醸成方策を検討し、2018 年度に実施または提言する。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
101	a	建学の精神ホームページ http://www.ryukoku.ac.jp/about/spirit.html
102	b	「建学の精神」冊子 http://www.ryukoku.ac.jp/shukyo/know/index.html
102	c	人権に関する基本方針 http://www.ryukoku.ac.jp/shukyo/committee/policy.html
102	d	年度別法要行事一覧(参加者数) (2014－2016 年渡)
102	e	2016.11-12 宗教局が実施した「顕真週間」に関するアンケート結果
102	f	研究活動の指針

II. 評価結果

総評
101①建学の精神の設定とその内容については、2012 年度に建学の精神を明文化し、本学が育成する人間像を明示していることが確認できる。 102①建学の精神の普及と醸成については、「建学の精神」冊子を全新生に配付や必修科目「仏教の思想」の副読本として使用することにより、普及に努めていることは理解できる。また、人権尊重の理解促進として、建学の精神に根ざした「人権に関する基本方針」を策定し、ホームページ等で明示している点も評価できる。 ただし、建学の精神に根ざした法要・行事を実施し、参加人数等を確認しているが、その人数がどれほど醸成に結びついているか、一定の指標（目標値）等による検証が必要であろう。また、宗教局が実施しているアンケート結果の分析も行っていたきたい。このアンケートによると、龍谷大学の建学の精神とは浄土真宗の精神であることについて概ね（70%以上）知ってはいるものの、浄土真宗へのイメージ調査項目では、「よく分からない」との答えが圧倒的である。よって、このアンケート結果からは、建学の精神への理解は十分得られていないと判断せざるを得ない。 今後の自己点検・評価の実施に当たっては、「現状」「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。」を十分理解いただき、箇条書きでなく、第三者が理解できるような記述として頂きたい。
長所・特色《箇条書き》
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載 ・建学の精神に対する普及と醸成については、宗教委員会においてより良い建学の精神の普及と醸成方策を検討し、2018 年度に実施または提言することとされているが、特に学生における現状把握とともに、更なる周知・理解に努めていただきたい。【留意点】

2017 年度（対象年度：2016） 自己点検・評価シート

基準 1	理念・目的
------	-------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価 現状 改善	
101	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	B	B
	①建学の精神と大学の理念・目的の連関性		
	②大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性 ③学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容		
102	大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	A	A
	①学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示		
	②教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知・公表		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
101① 建学の精神と連関した「龍谷大学の教育理念・目的」[101a]を設定しており、適切に設定していると認識している。 101② 大学の教育理念・目的と学部・研究科の目的の連関性を担保するため、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」を設定 [101b] しており、概ね適切に設定していると認識している。 101③ 学部・研究科ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的を示した3つの方針を定めている。 2015年度、「龍谷大学の教育理念・目的」及び「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針策定の基本方針」が策定されたことから、大学の理念・目的と3つの方針の連関性や、3つの方針相互の整合性をあらためて見直すため、全学教学会議のもとに「3つの方針一体的見直し作業部会」を設置し（2016年度第2回全学教学会議〈2016.9.27〉承認）[101c]、2016年度の作業結果及び2017年度の取組内容を全学教学会議に報告（2016年度第5回全学教学会議〈2017.3.23〉）[101b] しており、着実に見直し作業が進行していると認識している。 102①学部においては学部毎に、短期大学部及び研究科については、学科（専攻）毎に、学則において適切に明示されている。[102a] 102②本学の教育理念・目的、学部・研究科の「教育理念・目的」等については、各学部・研究科の履修要項や学生手帳、出講手帳、大学 HP において確認することが可能となっており、教職員、学生、社会に対して適切に周知・公表されている [102b]。	
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
項目 No.	
項目 No.	

課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
101③	大学の理念・目的と3つの方針の関連性、3つの方針相互の整合性の見直し。
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
101③	「龍谷大学の教育理念・目的」、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針策定の基本方針」を2015年度策定したことに伴い、見直し作業を行うため、全学教学会議のもとに「3つの方針一体的見直し作業部会」を設置（2016年度第2回全学教学会議〈2016.9.27〉承認）し、全学的に確認作業を実施。2016年度の作業結果及び2017年度の作業内容を2016年度第5回全学教学会議（2017.3.23）に報告している。
102①	学部・研究科の「教育理念・目的」については、毎年変更の有無について確認がなされ、適切性が確認されている。[102c]
102②	学部・研究科の「教育理念・目的」等の変更については、媒体間で齟齬が生じないよう、教学部及び当該学部・研究科が連携し確認を行っている。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
101③	「3つの方針一体的見直し作業部会」を通じて、全学的な共通の枠組みのもとに継続的に見直し作業を行う。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
101	a	龍谷大学の教育理念・目的（URL： http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html ）
101	b	学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針 （URL： http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html ）
101	c	3つの方針一体的見直し作業部会の設置について（提案）＜2016年度第2回全学教学会議 資料＞
101	d	3つの方針一体的見直し作業部会における2016年度の作業結果及び2017年度的主要な作業内容について（報告）＜2016年度第5回全学教学会議 資料＞
102	a	学部・大学院・短期大学部学則（抜粋）
102	b	2016年度各学部履修要項
102	c	2016年度各研究科履修要項（電子データなし）
102	d	2016年度学生手帳（電子データなし）
102	e	2016年度出講手帳
102	f	大学の教育理念・目的、学部・研究科の「教育理念・目的」 http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html
102	g	各学部・大学院における「教育理念・目的」「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」の変更について（依頼）（電子データなし）

Ⅱ. 評価結果

総評
この基準1「理念・目的」で設定している評価項目は、教育理念・目的ではなく、大学の理念・目的である。つまり、大学の設置目的・理念についての点検・評価を求めている。しかし、昨年度までのシートが「教育にかかる」との但し書きのもとで実施されていた関係で、今年度も継続して教学部が担うことになったようである。この件の問題解決については次年度以降の課題とし、今回は「教育理念・目的」を前提として評価する。 101①②③建学の精神と「龍谷大学の教育理念・目的」、その教育理念・目的と学部・研究科の目的は連関性を担保できているとともに、各学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針においても適切に設定していると判断する。また、2015年度に、「龍谷大学の教育理念・目的」及び「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針策定の基本方針」が策定したことを受け、大学の理念・目的と3つの方針の連関性や、3つの方針相互の整合性をあらためて見直すため、全学教学会議のもとに「3つの方針一体的見直し作業部会」を設置し、2016年度の作業結果及び2017年度の取組内容を全学教学会議に報告していることは評価できる。 102①②学部及び研究科にて定める教育理念・目的については、学則にて明確に定めるとともに、履修要項やHPにて明示していることから適切に周知・公表されていると判断する。
長所・特色《箇条書き》
・2015年度に策定した「龍谷大学の教育理念・目的」、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針策定の基本方針」の見直し作業のため、全学教学会議のもとに「3つの方針一体的見直し作業部会」を設置し、継続的に全学的に確認作業を実施している点は評価できる。
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・101③「3つの方針一体的見直し作業部会」において、引き続き継続的に見直し作業を行うことに期待したい。 【留意点】